

## R06b 大質量星形成領域 IRAS 06061+2151 の年周視差計測

新沼浩太郎 (国立天文台) VERA プロジェクトチーム (鹿児島大学、国立天文台)

大質量星形成領域 IRAS 06061+2151 に付随する水メーザー源、WB755 の VERA (VLBI Exploration of Radio Astrometry) による観測結果を報告する。

VERA による WB755 のモニター観測を 2007 年 10 月から 2009 年 9 月にかけて計 11 回 (2~3ヶ月おきに) 行い、年周視差及び、固有運動の計測に成功した。得られた年周視差は  $0.487 \pm 0.029$  mas で距離にすると  $2.054^{+0.130}_{-0.115}$  kpc に相当する。これは測光距離の値ともほぼ一致している。

また、IRAS 06061+2151 (WB755) の銀経、銀緯は  $(l, b) = (188.79, 1.03)$  で、得られた距離を考慮するとペルセウス腕に位置している。銀河定数として  $R_0 = 8.5$  kpc、 $\Theta_0 = 220$  km s<sup>-1</sup>、及びフラットローテーション ( $\Theta(R) = \Theta_0$ ) を仮定すると、WB755 の特異運動成分 ( $U_p, V_p, W_p$ ) は  $(15.4 \pm 2.1, -26.1 \pm 2.0, -12.0 \pm 1.3)$  km s<sup>-1</sup> であることが分かった。VERA や VLBA によって他にもペルセウス腕に位置するいくつかのメーザー源の年周視差や固有運動が計測されているが、それらのほとんどと同様に WB755 も銀河回転と反対の方向に比較的大きな特異運動成分をもつことが分かった。